

ぼくのみち 岡元夕弥

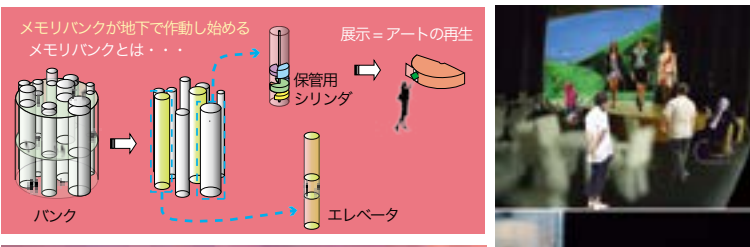
古くからの住風景が失われつつある現状で、未だに蛇行した路地、起伏のある路地、自然発生的に並ぶ住戸、戦前から残る石垣が多く存在する鴨池1丁目。ここを舞台に路地空間の魅力とは何かをもう一度見つめ直し、その魅力を生かした街を創造する。



メモリアンク 加世田朋子+工藤玲



人間は土に還り無機物へ憧憬を抱く。そこで人生の断片を無機物=アートとして残し(「バンク」に保管)、その後アートとして人生を再生し、死後自身をアートとして存在させるシステム、いわゆる死後の人生を製造する「メモリアンク」を構築した。これは、慣習の形骸化・簡略化が進む世情で、死に対する感情の変化に焦点を合わせた提案である。



生涯学習と共に過ごす 中野愛

現在、多くの施設で生涯学習教育が実施されているがその活動は施設内だけに留まっている。本計画では中央公園を中心として生涯学習機関に関連性を持たせることにより、各活動が多分野に及び多彩なものとなる。また、各施設・団体が一体となって取り組むことにより多くの人がその活動を知ることができ、住民主導の生涯学習が展開していく。



生き続けるための建築 増田綾子

人間の歴史とともに発展し、より高度な技術を要する存在となっている建築は、今日建設・運営・解体に莫大なエネルギーが投資され、人間から離れ一人歩きしていると言える。そこで敷地であるバスターミナルにおいて部材の細分化・ユニット化を行うことにより、活動する人々が主体となって作り上げていく商業空間の提案を行う。



REMEMBER ヴレビックフーオン

フランス建築コロンナル様式で建てられ、長い歴史を持つハノイ駅の改築計画を行った。既存の駅舎を再現し、大きな木をイメージした建物を駅舎をつむように設計し、それを地下まで伸ばし、地下に光を取り入れる。人が鉄道と優しく接することができる空間を計画した。



棚田農住景 中原裕次郎

提案の3つのポイント
① 棚田の内部に視点場を設けることによる、新しいスタイルの風景
② 住宅前庭の農地と住空間の関係性を考慮した住景観計画
③ 棚田を通じ、都心と農村がお互いに「活きる」為の提案



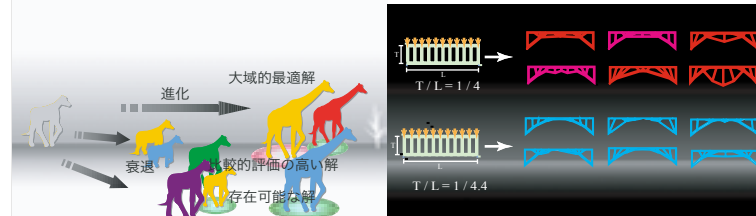
コンペ入選作品

ニコハウス 「ニュータウン小郡の丘 住宅設計コンペ」 審査員特別賞 山崎 済



「創」～進化による可能性「形態創生コンテスト2006」 優秀賞 坂中玲子+堀切秀作+工藤玲+ヴ・レ・ビック・フーオン

構造物の設計において、ISGAを用いることで厳密な大域的最適解だけでなく実現可能な複数の解候補が設計者に豊かな選択肢を与える。即ち、大域的最適解、局所的最適解を含む、比較的评价の高い解(優良解)が求められる。アルゴリズムにより骨組部の優良化を行い、選択・創造することでアーケードの形態創生を提案する。



BIKO バイコ 折りたたみバイクによる代行サービス 森哲也+矢山正大+王東揚+泊伸英

第6回 KISC 学生ベンチャービジネスプランコンテスト 優秀賞
第6回 大学発ベンチャービジネスプランコンテスト 九州経済産業局長賞
第3回 DREAM GATE ビジネスプランコンテスト全国大会 決勝進出

BIKO バイコサービス

BIKO 一年間の歩み
4月 ベンチャー特論 授業開始
5月 ビジネスの基礎学習
6月 チーム結成
7月 プラン発表、応募
8月 夏休み
9月 代行業者ヒアリング
10月 KISCコンテスト
11月 アンケートの実施
ユニホームの作成
12月 DREAM GATE 地区予選
2月 保険会社と提携
3月 DREAM GATE 全国大会

2006年度 第49回 建築展

アタリマエッテナニ? ーものに気付く、ものを築くー

日時: 2006/09/22 ~ 24
場所: アミュプラザ前広場

「建築展」は、建築学科3年生が中心となり自主的に企画から制作、開催までを行うものである。学生にとっては貴重な社会との接点であり、「課外授業」のような役割を担っている。歴史を重ねてきた建築展も今年で49回目を迎えることとなった。今年も鹿児島島の玄関口となる鹿児島中央駅のアミュプラザ前広場を開催場所とし、1/1スケールで実際の空間をつくり、またそれが変化することを多くの人に体験・参加してもらって建築展を目指す。

キャッチフレーズは「アタリマエッテナニ?」

利便性を追求した新しいものによって古き良きものが失われていく現代において、当たり前前に存在しているものの価値は見落とされている。不可欠だから当たり前になり、当たり前だから気が付かない。価値あるもの(こと)に気付くため、私たちは、身近に存在するものに変化を与えまたは解体して再構築し、もの新しい価値の可能性を発見してもらうことを今回の建築展のコンセプトに掲げた。気付くことは築くことに繋がる。

住宅における規格を変化させ規格の存在意義に気付く(GroupA)、訪れた人と一緒に築き新しい価値への変化を体感する(GroupB)、建物が構造で成り立っていること、身近なものが構造になり得ることを表現する(GroupC)、といった3つの方法でコンセプトを実現していくと考えた。

当たり前、身近なもの、気付く、築く

私たちが表現したものはほんの一側であり、当たり前ではあるが価値あるものはもっと多い。また建築は広く、今回制作されたものは決して建築と呼べるほどのものではないことも事実である。しかし、建築展を通して、私たちの建築を学んで考えたことを社会に表現できたことは貴重な経験であり、私たち自身「身近なものに気付くこと、身近なものに築くこと」を改めて実感することができた。特に今年は体験・参加型であったため、訪れた人々と共に創りあげられた建築展であったと思う。第49回建築展にご来場下さいました方々、また、このような厳しい社会状況の中、暖かなご理解とご支援をしてくださった方々、このような貴重な経験をさせて頂き誠に有難うございました。



生活の中には規格がある!!!

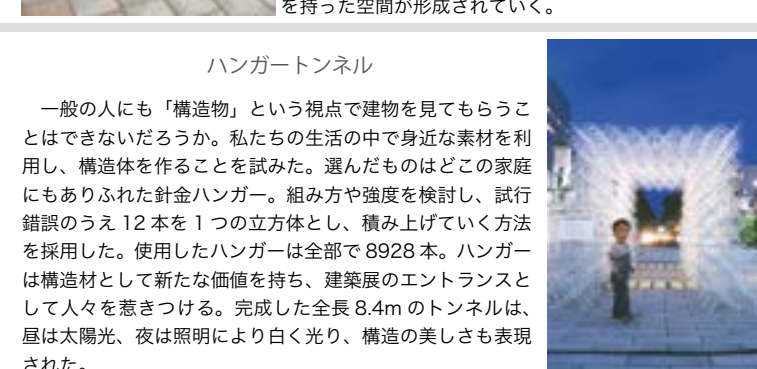
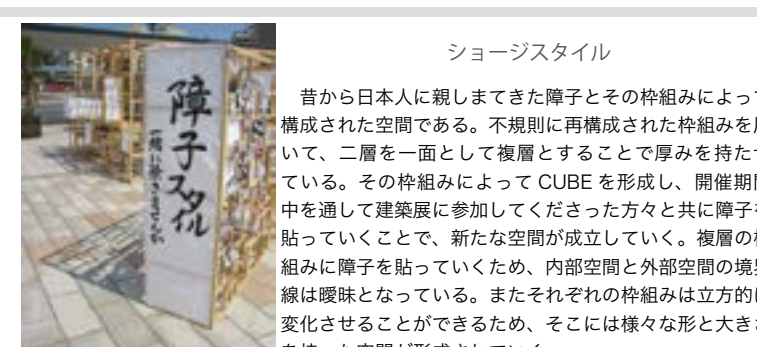
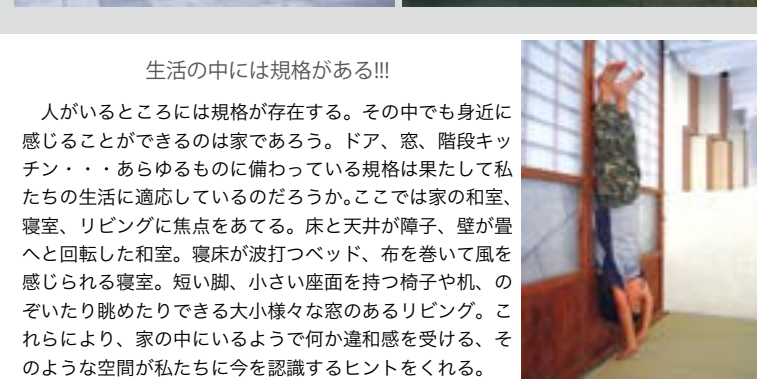
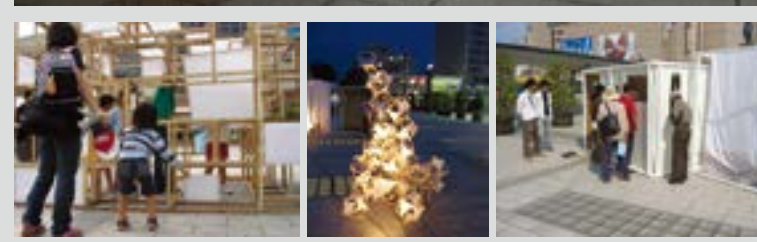
人がいるところには規格が存在する。その中でも身近に感じることができるのは家である。ドア、窓、階段キッチン・・・あらゆるものに備わっている規格は果たして私たちの生活に適合しているのだろうか。ここでは家の和室、寝室、リビングに焦点をあてる。床と天井が障子、壁が畳へと回転した和室。寝床が波打つベッド、布を巻いて風を感じられる寝室。短い脚、小さい座面を持つ椅子や机、のぞいたり眺めたりできる大小様々な窓のあるリビング。これらにより、家の中にいるようでは何か違和感を受ける。そのような空間が私たちに今を認識するヒントをくれる。

ジョージスタイル

昔から日本人に親しまれてきた障子とその枠組みによって構成された空間である。不規則に再構成された枠組みを用いて、二層を一面として複層とすることで厚みを持たせている。その枠組みによってCUBEを形成し、開催期間中を通して建築展に参加して下さった方々と共に障子を貼っていくことで、新たな空間が成立していく。複層の枠組みに障子を貼っていくため、内部空間と外部空間の境界線は曖昧となっている。またそれぞれの枠組みは立方的に変化させることができるため、そこには様々な大きさを持った空間が形成されている。

ハンガートンネル

一般の人にも「構造物」という視点で建物を見てもらうことはできないだろうか。私たちの生活の中で身近な素材を利用し、構造体を作ることを試みた。選んだものはこの家庭にもありふれた針金ハンガー。組み方や強度を検討し、試行錯誤のうえ12本を1つの立方体とし、積み上げていく方法を採用した。使用したハンガーは全部で8928本。ハンガーは構材材として新たな価値を持ち、建築展のエントランスとして人々を惹きつける。完成した全長8.4mのトンネルは、昼は太陽光、夜は照明により白く光り、構造の美しさも表現された。



1年	設計基礎演習Ⅰ ・騎射場に仕掛ける -10mの空間設計-	3年	建築設計第三 ・大学ミュージアム・アネックス ・観客施設「スミミング・プール」
2年	建築設計第一 ・住宅作品・敷地分析 住宅設計 建築設計第二 ・まちなかの大学サテライト ・「ピクニック気分で芸術と戯れる」 現代美術館	4年	建築設計第四 ・病院 ・集合住宅 (建築設計第五) 卒業設計



騎射場に仕掛ける-10mの空間設計-



□ 橋詰の交番

(設計概要)
「交番」を題材とした、学科に入ってから初めての本格的な建築設計演習。街角の目立つ場所に位置することや、市民の安心・安全を守るための施設であると同時に、親しみやすさに配慮し設計を行う。

正方警の箱 大石康平



route 桜島 清原達弥



Windmill Box 神原亮一



Triangle 東佑二郎



□ 住宅設計

(設計概要)
周辺環境との対応、空間イメージや生活要求を考慮した住宅の提案を行う。

かんまちの家 瀬戸口博美



Mille-feuille 松添愛子



四重奏 和田大典



□ まちなかの大学サテライト

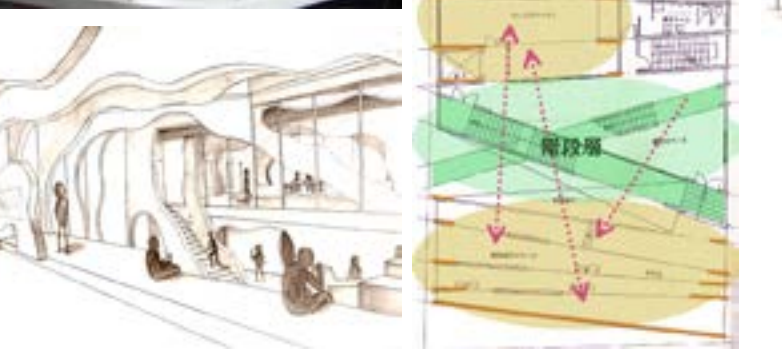
(設計概要)
大学の地域貢献を目的に、鹿児島市中心街に大学サテライト機関として、地域に開かれ、学生や近隣生活者が利用しやすくなる魅力的な施設を計画する。

(プログラム)
・オープンスペース
・店舗スペース
・展示スペース
・ワークスペース
・研究・会議スペース
・居住スペース
・駐車・駐輪スペース
・その他

stream 中村聡子



Neuron~刺激の伝達~ 野崎尊



路地の先に... 長谷部裕子

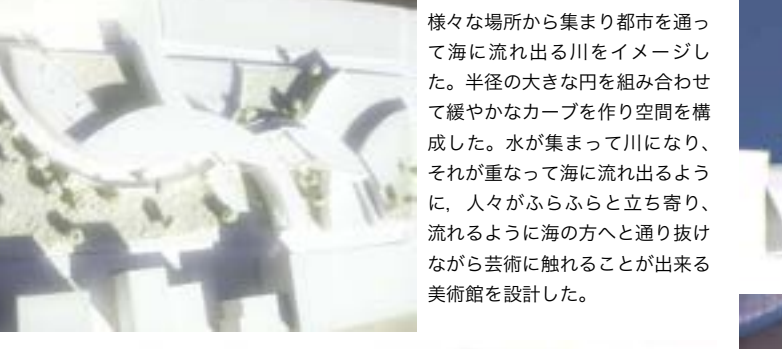


□ 「ピクニック気分で芸術と戯れる美術館」現代美術館

(設計概要)
「見て」観賞するだけでなく「触れる・味わう・かおる・聞く」五感で楽しむ環境で、新たな試みを誘発する魅力的な建築を提案する。

(プログラム)
・導入空間
・展示空間
・収蔵空間
・教育・普及空間
・管理・共通空間
・野外スペース
・駐車場
・その他

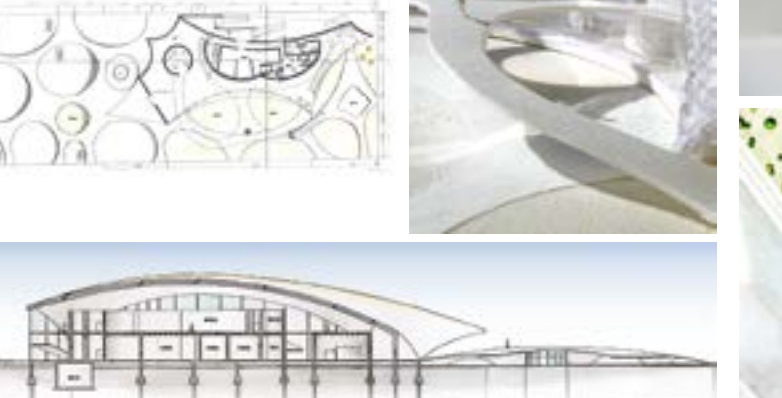
/// (スラッシュ) 岩元俊輔



UPHEAVER 富山晃一



Line×Line 福元美紗



□ 屋内競技施設「スミミング・プール」

(設計概要)
各種展示やイベント用スペースを備え、「地域に開かれた大学」の情報発信拠点となる美術館を計画する。

(プログラム)
・共遊部門
・ギャラリー部門
・研究・業務・収蔵部門
・普及・教育部門
・その他

機能性・デザイン性・架構の力学的安定性の調和をとり、都市に對し開かれた付加価値の高い屋内競技施設を提案する。

プールを使う人が主役、使わない人も主役になるような提案。まちとプール、人と水の間にあるみえない境界線を取り除き、オープンなプールにするために、ガラスの壁を敷地の形に沿わせ、プール空間と道路の間に庭(Garden)を設ける。それにより、多くの人のコミュニティが生まれ、鴨池競技場と市立球場を結び、鴨池を競技場タウンとして完成させる。

この建築を訪れるすべての人に開かれた美術館である。敷地のレベル差を生かすために2つのエントランスを設け、それらを繋ぐ動線を市民ギャラリーと兼ねることでギャラリーは身近な存在となる。また、アトリウムを中心とした空間構成により、展示空間の雰囲気をごくからでも感じられるよう考慮した。



Line×Line 福元美紗



Line×Line 福元美紗



□ 集合住宅

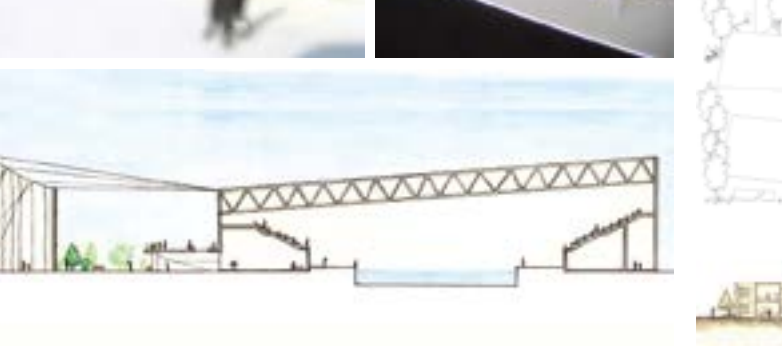
(設計概要)
集合住宅と生活支援施設などの多様な機能を複合させることにより、豊かな居住環境・生活環境を計画する。

(プログラム)
・集合住宅
(一般家庭用・高齢者・単身者用住宅)
・生活支援施設
・その他

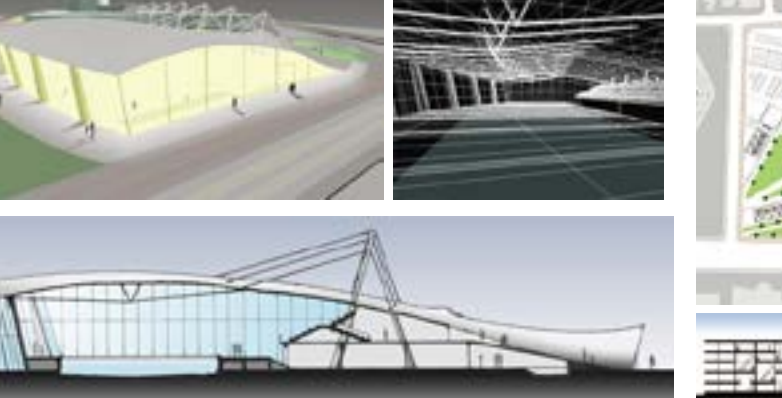
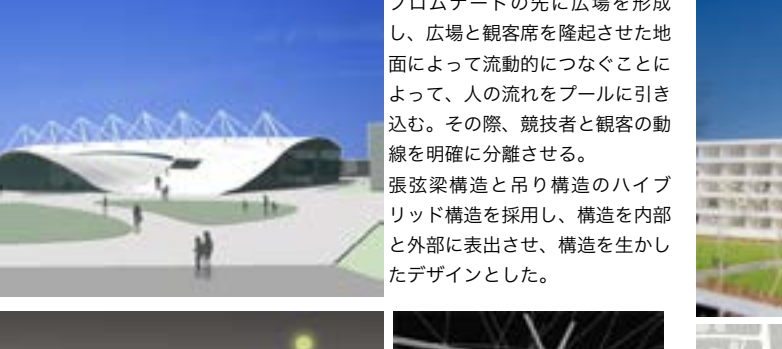
敷地を4つのVillageに分け、MainStreetで囲う。そこに戸建て感覚の住戸を配置することで、小さなコミュニティが発生する。そうして、人が集まると花が咲き、人の集まりは花になる。ここに咲く花も、ここで暮らす人も、全てが花を咲かせ、においをかもし出す。そしてにおいは街全体をつつみ込む。そんなあったかいまち。においのあるまち。



Line×Line 福元美紗



Line×Line 福元美紗



□ 集合住宅

(設計概要)
集合住宅と生活支援施設などの多様な機能を複合させることにより、豊かな居住環境・生活環境を計画する。

(プログラム)
・集合住宅
(一般家庭用・高齢者・単身者用住宅)
・生活支援施設
・その他

敷地を4つのVillageに分け、MainStreetで囲う。そこに戸建て感覚の住戸を配置することで、小さなコミュニティが発生する。そうして、人が集まると花が咲き、人の集まりは花になる。ここに咲く花も、ここで暮らす人も、全てが花を咲かせ、においをかもし出す。そしてにおいは街全体をつつみ込む。そんなあったかいまち。においのあるまち。



Line×Line 福元美紗



Line×Line 福元美紗

